



アクテノン

NO. 108

名古屋市演劇練習館機関紙

エッセイ



「僕とエキドラ」

よっさん
(劇団Exciting Drive 団長)

劇団Exciting Drive(通称エキドラ)の団長、よっさんと申します。今では珍しい肩書なのか知り合いに主宰や代表はいても団長はいません(笑)といわれても僕は2代目です。そもそも旗揚げメンバーではないんです。初代団長が退団する際、なし崩し的に後を継ぎました。入団は2003年の第8回公演の稽古期間中でした。

飽き性なのか、高校まで柔道、野球、剣道、空手とやってみましたが長続きせず、出たがりて人を笑かす事が好きだったので大学では演劇をやってみようと思い、軽い気持ちで演劇部に入部したのが演劇人生のスタートでした。若気の至りで痛い目にも散々遭いましたが実に充実した4年間でした。お客さんをグラグラ笑わせた時や感動させた時の快感は一度知ると病みつきです。社会人になって演劇とは疎遠になりましたが、地元兵庫で5年振りに舞台に立つ機会があって、久々にお客さんを笑かして僕の中で火が付いた状態で愛知に転勤になりまして、名古屋で劇団を探していたところで、そう、出会ってしまったんです。劇団Exciting Driveに。



劇団 Exciting Drive 第24回公演
「水戸黄門 ～人生楽ありや蜘蛛あるさ～」
'19年1月26日～27日
昭和文化的小劇場にて

僕と同年代のメンバーで取っつきやすそうだったので見学に行ったら公演のキャスト決めのタイミングでして、「今日

入団してくれたら役あげるよ」と言われて軽いノリで即決しました(笑)

以後エキドラに軸足を置いて、人の縁もあって客演に呼ばれたりして多忙な日々を過ごしています。何事も長続きせず仕事も割と変えてますが、よっぽど演劇が性に合ってるんでしょうね。

ふと疑問に思ったんですが、数多ある名古屋の劇団の中で何故エキドラに居続けるのか? 執筆にあたり熟考してみました。多分「一貫性が無い」ことが関係しているのかなと。

僕の入団後から数えても自前の脚本家3人演出家4人。ジャンルも現代劇、時代劇、近未来モノ、ミュージカル、SF、ミステリー、アクション等々。ギャグ満載の回もあればお客さんがクスリともしないシリアスもやる。節操なく手当たり次第に面白そうなことをやってみる。これが強みなのか弱点なのかはさっぱり分かりませんが、僕はこのスタイルが気に入ってます。

今まで年に一回のペースで公演を打ち続けたエキドラですが、今年の3月コロナの影響で初めて公演中止を経験しました。本番2週間前の苦渋の決断でした。今現在も舞台公演の目途が立たず8月から動画配信に挑戦しています。手探りでコンテンツを作り続ける日々ですが、これが意外と楽しいです。

ですが我々のいるべき場所は舞台です。いつか「ブチ・アクテノン」にエキドラの公演情報が掲載され、かつてのように公演スケジュール欄がびっしり埋め尽くされる、そんな日が来ることを切に祈っております。



劇団 Exciting Drive 公式YouTube
「エキドラチャンネル」用コンテンツ
「裏側」
撮影日'20年9月20日
アクテノンにて

トピックス

「私が劇作家になった日」

刈馬カオス（劇作家・演出家／刈馬演劇設計社 代表）



第36回名古屋市芸術創造賞という名誉ある賞をいただきました。月並みではありますが、これまで支えてくれた関係者と家族がいなければ、私は何もできません。心から感謝します。この件についての原稿依頼をいただき色々考えたのですが、授賞式でのスピーチ以上に語るべきことはないということで、それと同じような内容を書きたいと思います。手抜きではありません。ほんとですよ？

演劇は高校から始めたのですが、初めて戯曲を書いたのは卒業後、20歳の時。後輩が地区大会で上演する台本がないというのでお試して書いたのが最初です。その作品は県大会に進み、栄にあるアートピアホールで上演されました。終演後に個別で講評をいただく機会があり、施設内の会議室で待っていると、そのとき審査員をされていた佃典彦さんが現れました。当時の佃さんは30代で、派手なアロハシャツで前髪にメッシュが入っていたと記憶しています。佃さんは席に着くなり、こう言い

ました。「……ダンチだよ」。なんのことが分かんずボカンとしていると「脚本書いたの誰？」と聞かれたので手を挙げると「君？ダンチだよ」と。やっと「段違いだ」と褒められたと気づきました。嬉しかった私は翌年も書き、さらに書き……と繰り返して今に至ります。そして、しばらく前から私も高校演劇の審査員をやらせていただくようになり、ある年の会場がアートピアホール。上演校への講評のため通されたのは、あの会議室でした。自分の人生が変わった場所に、あの時の佃さんと同じ立場で再会したことは、様々な想いがこみあげる出来事でした。

これまで公演や作品に対する賞をありがたいことにいくつかいただきましたが、今回は過去の実績と今後の期待に対して贈られるというもので、また違った感慨があります。賞の名に恥じぬよう頑張ります。……と、最後も月並みな言葉になってしまいましたが、生涯をかけて演劇に取り組み、創作してまいります。



刈馬演劇設計社 PLAN-15
「異邦人の庭」
'20年8月11日（無観客配信公演）
G/PITにて

アクテノン・シャワー

■ コロナ禍でも芸術を届けたい【小劇場 G/PIT 松井真人】

2020年3月以降、15本の公演が中止・延期となりました。普段は半年先までは埋まっている劇場もまだまだ空きがある状況です。とはいえ徐々に劇場に演劇も戻ってくれています。6月以降5作品が上演され年内あと5本の作品が上演予定です。

劇場の取組みとして、アクリルボードの設置、換気扇の新設、キャッシュレス決済端末の設置等を行いました。

コロナ禍で劇場は本当に厳しいです。しかしながら、演劇人の皆様が基金を設立してくださったり、寄付をしてくださったり、何よりも劇場を大事に思ってくださっている事が本当に励みになっております。劇場が文化芸術の発信の場として存続できるよう、今後も頑張っていきたいと思っています。G/PITはすべての芸術に関わる人を応援しています。皆さんと芸術を分かち合えたら、本当に嬉しいです。

<https://twitter.com/gpitnagoya>



■ 空けた風穴を大きくしたい 4都市ツアーへの挑戦【宙空空地】

多くの業界でそうであるように、演劇界も致命的な打撃を受けた年。そしてそれは終息を迎えるかどうかも定かでない。生身の人間が観客と同じ空間で演じ、その呼吸や伝わる振動、響く音、エネルギーで直接、心を揺さぶる表現世界。この状況下、リスクを極限まで減らし実施することはできないかと、今年7月、短編集公演を無事開催・閉幕できました。関係者全員、そしてお客様方のご協力があったの成功。可能性があるなら挑みたいと、感染拡大防止ガイドラインに則ったツアー実施を決断しました。11月26・27日名古屋公演を皮切りに、12月東京、年明け2月大阪、3月札幌の4都市。台本も大幅改訂した「その鱗 夜にこぼれて」。宙空空地、また新しい挑戦です。

E-mail: kuhchu.kuhchi@gmail.com



'17年4都市ツアー
「ふたり、目玉焼き、その他の
さいいな日常」より
一人芝居「如水」

アクテノン利用団体紹介

- ① 発足年 ② 団員数 ③ 主な上演作品／会場（上演年） ④ 連絡先

演劇 創造結社アブソリュート・フリーダム



主宰・真宮広義が妖帝デカダンス、ネオ自由クラブを経て、2018年に発足。愛知県で、演劇をメインに写真展などと複合したり、従来の演劇よりイベント色の強い公演を展開。作品はアングラもできる文芸系からSFオリジナルまで幅広いジャンルを扱う。社会人劇団の為、公演企画時のみ集まるユニット方式。

次回作は2021年公演予定の真宮広義書き下ろし作品「情に憑かれて」(仮)で、現在正団員およびキャスト・スタッフを募集中。応募・問い合わせはメールにて。

- ① 2018年 ② 23名
③ 「神と踊る輪舞曲(ロンド)」／ナンジャーレ('19年) 『もう、ふたたびお目にかかりません。さようなら。』／spazio rita／金色鮫('18年)
④ 真宮 広義
E-mail: abso_freedom@yahoo.co.jp



編集発行／令和2年11月25日（年4回）
NPO 公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 [演劇練習館 [アクテノン]]
〒453-0841 名古屋市中村区稲葉地町1-47
TEL 052-413-6631 FAX 052-413-6632
※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。



「友の会」会員募集中!
<http://www.bunka758.or.jp/>



施設からの
情報をご
覧いただけ
ます!

